

#編集後記 明けない夜って。

一月は行く、二月は逃げる、三月は去る、といいますが、新しい年を迎えたと思ったら、早いものでもう3月です。

この分では東京オリンピックもあつという間にやってくる・・・とっていましたが、なんだかとんでもない事態になってきました。 (+_+)



アヴニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。

検疫官や医師や看護師といった医療従事者の他携わった厚労省職員にまで感染が広がっています。

天皇誕生日の一般参賀や東京マラソンの一般参加の取りやめをはじめ、イベントの中止や縮小が相次いでいますが、なにしろ相手は目に見えない未知のウィルス。

影響範囲を特定したり、事態の収束を予測したりすることが非常に困難で、企業活動や世界景気への今後の影響も計り知れず、先行きが読めない状況です。



さて例年のことですが、この時季3月から改定される健康保険料、介護保険料について発表がありました。

2月18日の日経新聞によると、特に今年は主に大企業で働く会社員の介護保険料が4月から大幅に上がる仕組みが全面的に施行されるとのこと。

介護費については高齢者の自己負担額を除いた金額の半分を国と自治体が負担し、残りを高齢者と現役世代の保険料で賄っていますが、**介護費は医療費を上回る勢いで増えています。**

なにしろ長寿国、わが日本。介護サービスのニーズはこれからもますます増えていくでしょう。

言わずもがな要介護状態にある対象家族を抱える方にとっては、介護は大きな問題です。

政府の施策の中では育児と介護はよく一緒に使われますが、その実は大違い。

先に楽しみが見えるのが育児だとすれば、**先が見えないのが介護**だからです。

小泉進次郎環境相の育休取得がニュースにとりあげられていますが、介護の為に会社を辞めざるをえない「介護離職」の問題にももっと注目してほしいと思います。

「する」にせよ「される」にせよ、**介護は誰だって「明日は我が身」になりえる問題。**

今月号の記事で**時間単位の介護休暇取得**を紹介していますが、職場においても介護休業や介護休暇といった制度を周知して、先の見えない介護に悩んでいる方を支えてあげてほしいと思います。



2月上旬の週末、所用で地元宮崎に現地ゼロ泊、フェリー2泊の強行軍で帰りました。

ところが、復路の宮崎港発三宮行きフェリーは強風波浪注意報が発表された中での出航となり、今まで経験したことがないくらい大きく揺れました。

気分転換に夜中にデッキに出てみると、激しい風の音と荒れ狂う底知れぬ漆黒の海。

広い太平洋なので、陸地の灯りもありません。

やはり、人は見えないことに恐怖や不安を覚えるものです。

こんないい歳をしたおっちゃんでもね。 (^_^)

でも不安な夜を過ごし船が穏やかな大阪湾に入って安堵した時、西の淡路島に月が沈み、その後反対の東の空に太陽が昇っていく表紙の写真の情景に巡り合うことができました。

体に朝日を浴びて、明るくなっていく世界が開けると元気が湧き出てくるようです。

「**明けない夜はない**」って本当なんですね。

いまだ終息の兆しが見えない新型コロナウィルスですが、早く収まることを願っています。



美しかった満月の入り